第2138回　(2012.5.16(水)晴れ)　NO.1518

Yonago East Weekly

●創立／1968年4月24日　●事務所／米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 TEL(0859)32 - 5531
●例会日／水曜日12:30～13:30　●例会場／ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 TEL(0859)33-0911
●会長／尾沢三夫　●幹事／永見吉平　●会報／伊藤慎哉

会員数83名

今週のお祝い
本人誕生祝: 1日　遠藤智美君　5日　細田耕治君、杉本真吾君　6日　内田幸男君　14日　楠明彦君　24日　上森英史君

副会長挨拶

皆さんこんにちは。本日は、会長が公務のため御欠席ですので、代わってご挨拶いたします。本日は、井上万吉男様をお迎えし、ソ連の抑留生活のお話がございます。
私の世代は、戦争の様子を全く知りません。ただ子供の頃、ラジオで「尋ね人」というのをやっており、微かに戦争の名残を感じたものでした。井上様のような方々が、戦後日本の復興に尽くされたからこそ、今の日本があるのだと、感謝しております。心して、今日の卓話を拝聴したいと思います。
ありがとうございました。

幹事報告

1. 7/8　第1回インターアクト委員長会議のご案内
（倉敷国際ホテル）
2. 7/2　ロータリー財団地域セミナーのご案内
（グランドプリンスホテル高輪）
3. (株)米吾　内田雄一朗様より会葬お礼状
4. 7/21.22　第1回瀬九四クラブ開催について
（阿波徳島RCより）
5. 5/30職場訪問　山陰労災病院「ミニ人間ドック」
健康講話「Road to a peaceful Death (大往生)」聴講のみでも可能（予約不要）
6. 例会変更のお知らせ
米子中央RC5/31(木)夜間例会　ビジター受付あり
米子南RC　5/28(月)休会（定款第6条）
ビジター受付なし
倉吉RC　5/29(火)　⇒5/30(水)移動例会に変更
ビジター受付あり

次回プログラム

5/23「中海テレビの自主制作番組こぼれ話」
中海テレビ放送　パルディア番組　担当
三浦健吾　氏
5/30「職場訪問　山陰労災病院
（ミニ人間ドック）」

今後の予定
5/23　臨時総会　新旧引継ぎクラブ協議会
5/27「買・食・観」婦人の集い　（大阪）
5/30　職場訪問例会　山陰労災病院
6/27　夜間例会　ホテルサンルート米子

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Reach within to embrace humanity

こころの中をみつめよう 博愛をひろめるために

≪プログラム≫

「旧ソ連による強制抑留の実態」

財団法人　全国強制抑留者協会
理事長　井上万吉男　氏

ご紹介いただきました井上でございます。日頃、息子が皆様にお世話になっております。今日は、私の三年間のシベリア抑留のお話をさせていただきます。

さて、先の戦争がなぜ起こったのか、ということです。様々な説がございますが、支那事変以降、資源のない日本は、いろいろな国から批判を浴び、資源を日本に送らない、ということから戦争になった、という一面があります。

私がソ連に送られたのは、独裁者スターリンの意向が大きいわけです。日本が受諾したポツダム宣言の中には、日本の兵士は終戦後、即刻日本に帰還させる、という条項がございました。ところが、私は終戦時、平壌、今のピョンヤンの予備士官学校の生徒でしたが、私をはじめ、朝鮮半島、満州にいた軍人、軍属、一部民間人約60万人が、ソ連に強制的に連れていかれました。そして、あらゆる労働を強いられたわけです。

ご存知のようにシベリアは、大変寒いところですし、食事も大変粗末なものでした。また、労働には、過酷なノルマがあり、それを果たすまで夜中までも労働させられたわけです。寒く、粗食のため栄養失調で、その上過酷な重労働という三重苦でした。永い人では10数年にも渡り、ソ連にこき使われてきました。

私は、ウラジオストックの郊外に連れていかれました。軍港であり、漁港でした。そこでは、魚の運搬、荷づくり、荷送りなどの労働がありましたが、魚箱とはいえ重いものは90kg程もあるのです。それを一人で担いで貨車に載せるような作業です。粟や稗が僅かに入ったお粥程度の食事で、そういった重労働を強いられるので、ばたばたと倒れる人が出るのです。
実は私は、終戦後すぐに風呂にも入れない不潔な状態が続き、足が水虫になり、靴がはけない状態になっておりました。そこで上司から、下駄ばきでもできる炊事班長をやれ、と言われずっと炊事をやりました。そういうわけで告白しますと、本当の過酷な重労働というものは、私は経験しておりません。

食事ですが、大きめの茶碗にお粥が一食、もう一食はパンでしたが、まともなパンではありませんでした。時にまともなお米が入ると、ご飯粒入りのスープを作るのですが、そのご飯粒の数が、こっちは3粒であっちは5粒だ、と言って争いになる程の貧しい食事内容でした。みるみる、皆やせ細っていきました。

栄養失調から次第に、壊血病というのが出てきました。ビタミン不足から、まず体に赤い斑点がでて、そのうち動けなくなるのです。全体の半分以上が、なりました。ビタミン不足で薬もない中で、どうするか考えました。その時私は、青々とした松の葉に気がつきました。毒になるという話もありましたが、私は独断で松葉を食べさせることにしました。細かく刻んでお粥の中に入れ、食べてもらいました。大変な批判を受けましたが、次第に壊血病が収まってきました。医学的にどうかは解りませんが、結果としてなんとかなりました。現地で多くの方が亡くなりました。十分な埋葬もできなかったのです。そんな馬鹿なというようなことが、実際におこなわれておりました。零下50℃も経験いたしました。立小便も柱のように凍る状況です。

昭和の終わり頃から、現地で亡くなった方の慰霊をしようということになりまして、10数回墓参に行っております。また、会長の相沢英之さんとモスクワにも何回も行って、保障交渉もやっております。ところが、ロシアは国際法違反を恐れて、我々を「捕虜」と呼んで、保障を避けようとしておおります。

まだまだ話足りないのですが、時間ですので終わらせていただきます。